

ビニル床材施工の接着剤選定の考え方

<はじめに～接着剤を用いる理由～>

- ・ビニル系床材は堅固なものではないため、床下地に固定されることで床材として機能します。特に“置敷き”を謳う商品以外はこれが不適切であると、使用環境下での伸縮を抑制できず、浮き、膨れ、剥がれなどのトラブルを招くことがあります。
- ・接着工法はビニル系床材の固定方法として一般的な施工法であり、接着剤は床下地に床材を固定しその動きを抑えます。

<適用選定の判断>

- ・床材の施工は建築の現場作業となるため、そこで用いる接着剤の選定には、その部屋の用途上の優先事項、制約事項、床材の特性、気温や湿度、通風や日射という施工環境などを事前に確認することが重要です。また、この判断はこれら条件を考慮して適性を判断できる“施工知識のある方”が行うことも大切です。
 - ・施工される環境因子や優先事項により接着剤の選択性はさまざまに異なるため、次頁の選定表は“床を収めるための接着性、作業性”を優先した推奨工法の選択肢として掲載しております。
- 安全性を考慮した上での「選択肢」「推奨」を示すのみであり、正解もひとつではありません。マス内に複数の接着剤があるのは、“どれでも良い”ということではなく、要求条件に応じて“適切なものを選択する”ということを表しています。
- ・また、部屋の用途や施工環境など他に優先する理由がある場合は、別の工法を選択される場合があります。最終的な適用決定は施工管理者と施工者の間で協議してください。

<物理上の制約>

- ・メンテナンス計画や使用目的によっては、水の持ち込み、移動荷重などを考慮した適切な工法選定が必要です。
 - ・低温時には、床材は硬くなり、接着剤の粘着は低下し施工性が低下します。スムーズな施工のためには、水性形;15℃以上、溶剤形;5℃以上の環境温度を推奨します。
- 環境に応じて溶媒揮発性を考慮した適切な工法を選定する必要があります。
- このほか、床材と併せ、“施工上の留意点”はP.386～389にもまとめてありますのでご参照ください。

<用語の意味>

- 臭気 : 床施工に使う接着剤はその性能を得るため多様な化学物質を含有しますが、一般に施工後床材で蓋をされるため施工後の居室に染み出すことは稀なことです。しかし、昨今の健康被害への配慮や施工者の環境を考慮し、対応可能な商品では臭気の低減を図っております。
- なお、臭気を感じ方には個人差や過去の慣れがあるため、“低臭”ということと“その方の感じ方(不快の度合い)”は必ずしも関連しない場合があります。
- ※臭気強度の一般的相関
 溶剤系 > 水系 ウレタン系 > エポキシ系 > ラテックス系 ≧ アクリル系
- 非吸湿下地 : セメント系の下地に比べ、木質、ベニヤ、樹脂、金属などは希釈溶媒をほとんど透過しません。そのため溶媒の揮発によって固化する接着剤はいつまでも固まらないことがあります。従って化学反応により硬化する接着剤の選定が必要になります。
- 放置床 : 施工後、使い始めるまで長くなる場合、硬化まで時間がかかる水性系接着剤を用いると昼夜の寒暖などの外部要因によりタイルの伸縮、反りを生じ不具合が発生する恐れがあります。この場合、反応硬化の溶剤形接着剤の使用を推奨します。
- 耐水工法 : 直土間コンクリート下地、および施工後の水掛りが想定される部位、特殊なメンテナンス方法を予定している場合、耐キャスト性を考慮したい場合などで適用する工法です。
- 垂直面用接着剤 : 施工時または施工後に含水率が高くなるのが想定される下地に対処するための工法ではありません。適用する接着剤には塗布時のダレ防止の要求があるため、概して粘度を高く設定しています。塗布作業性の面から平場への施工には向きませんが、小面積であれば接着のための機能に関し特に支障はありません。
- ピールアップ工法 : これまで記述した“貼り床材”と異なり、使用時にめくり・戻しが必要となるOAフロア用仕上げ材などの工法として開発された工法で、スベリ止め剤がその専用接着剤となります。